

# 令和元年度取り組み内容および達成状況（2019）

## 1 <中長期目標>

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸長させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④浪商高校創立100周年までに、浪商ブランドを確立する。  
ブランド：泉州地域を代表する進学校。大阪を代表するスポーツエリート校

## 2 <重点目標>

☆スポーツと進学の本を柱にした学校の構築を目指すため、次の2点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。

- ①学習活動及び学習環境の充実
- ②部活動の成果を発揮

☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。

- ③進学指導マネジメントシステムの構築
- ④進学実績の成果向上
- ⑤中高一貫体制の確立

☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。

- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
- ⑦人権教育・安全教育の充実

## 3 <目標達成状況>および<今後の課題と取り組み>

重点目標	令和元年度 具体的な取り組み内容と達成状況	令和2年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業到達目標、生徒の特性に適した授業の精選と担任、学年会と連携協力した系統的、組織的指導体制の確立に向け、改善と工夫が必要。&lt;C&gt;</li> <li>・各コースの重点ポイントを各教科内で再構築する機会を設定できなかった。&lt;C&gt;</li> <li>・新コース再編に向けた準備と検討を行う。&lt;C&gt;</li> <li>・新コース再編に伴う新カリキュラム、新学習も視野に入れたカリキュラムの検討を進める。&lt;C&gt;</li> <li>・学年、コースごとに浪商手帳の活用、朝学習にも積極的に取り組んだ。&lt;B&gt;</li> <li>・1年学年会でロッカーを廊下に置くことで整理整頓、学習環境改善の効果があつた。&lt;B&gt;</li> <li>・『私の一行』の取り組み内容をリニューアルし、1,2年全体で夏休みの課題として取り組んだ。&lt;A&gt;</li> <li>・スタディサプリ（I II 全学年）、スタディプログラム（その他のコース1年）を活用し、コンテンツ利用による学習の習慣づけを行えた。&lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業の研究、定期的な授業研修を行うとともに生徒の自主学習の習慣付けを行う。</li> <li>・研究授業、教員研修を通して生徒が主体的な学びを育める授業形態、内容を模索する。</li> <li>・新コースの根幹となる探究、グローバル、スポーツ科学の活動について、コースごとの達成目標から3年間の系統的な学びの計画を企画、立案する。</li> <li>・到達度テストの結果を分析、検証し、指導内容、指導方法の見直しや授業での対策策を図る。</li> <li>・全学年、個人ロッカーを廊下に配置し、落ち着いた学習活動に取組める環境を整備する。</li> <li>・新コースに関する特徴、ポイント等の情報を教員間で共有する。様々な学習コンテンツを利用し、効果的な学習方法を検証する。</li> </ul>

<p>②</p> <p>部活動の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強化クラブは、大阪代表として近畿大会、全国大会出場および入賞を果たした。(ハンドボール部、陸上競技部、水泳部) &lt;S&gt;</li> <li>一般運動クラブ、NSC(浪商スポーツクラブ)は全国大会出場など好成績を残した。(レスリング部、NSC) &lt;S&gt;</li> <li>文化部合同イベントを年に3回行い、文化活動の充実と入部生徒を増やす努力をした。 &lt;A&gt;</li> <li>浪商スポーツ&amp;カルチャーフェスティバルで運動部、文化部、生徒会など多くの生徒が関われるイベントを3回に分けて実施した。のべ約500名の小学生の参加があり、近隣地域の活性化、スポーツの普及活動の一環として貢献できた。 &lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部は大阪体育大学とのインターナシッパやクラブ連携、専門的なスポーツ科学の導入により、更なる発展と強化を図る。</li> <li>文化部においても各クラブが設定する目標達成に向けて、文化部全体が協力、連携し、それぞれの目標達成に向けて精進する。</li> <li>文化部の部員数が伸び悩んでいる原因を究明し生徒への働きかけだけでなく、生徒募集時のアピールの工夫を図る。</li> <li>大阪体育大学との連携により、スポーツの普及活動、近隣地域を中心とした社会貢献活動を今後も継続して行う。</li> </ul>
<p>③</p> <p>進学マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路部が連携し共通理解を図った。 &lt;A&gt;</li> <li>進路関連行事は学年と進路部が状況を把握して理解し合い協力して立案、運営を行った。 &lt;A&gt;</li> <li>生徒、保護者への情報提供の場を設定した。 &lt;A&gt;</li> <li>模試の結果資料の活用と分析を系統的に行った。 &lt;A&gt;</li> <li>年間を通して新学習指導要領についての研修を教務部内で実施した。 &lt;B&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路指導部が連携し共通理解を図る。</li> <li>進路関連行事は学年と進路指導部が状況を把握して理解し合い協力して立案、運営を行う。</li> <li>進路説明会や関連文書等を用いて、生徒、保護者への情報提供の場を定期的に設定する。</li> <li>模試の結果資料の活用と分析を系統的、計画的に実施する。</li> </ul>
<p>④</p> <p>進学実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学 8名 ➡ 4名</li> <li>関関同立 10名 ➡ 12名</li> <li>産近甲龍 15名 ➡ 28名</li> <li>大阪体育大学 58名 ➡ 50名 &lt;B&gt;</li> <li>全教員が統一した意識を持ち、全コースで公募推薦からチャレンジする授業運営を試みた。 &lt;B&gt;</li> <li>3年全コースで進路検討会を実施した。 &lt;A&gt;</li> <li>学年、コースに適した保護者向け進路ガイダンスを計画し実施した。 &lt;A&gt;</li> <li>小論文指導の継続、英国の学科試験の点数向上を目指した。 &lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学 5名以上</li> <li>関関同立 10名以上</li> <li>産近甲龍 25名以上</li> <li>大阪体育大学 58名 (体育43名、教育15名)</li> <li>昨年以上の実績向上に向けて取り組む。</li> <li>A0、指定校、内推のグループと推薦、一般を目指す生徒の両輪で指導を行い、生徒の希望進路を実現する。</li> <li>新規の指定校推薦、提携校推薦を開拓を行い、生徒の進路選択の幅を広げ、進路保障に繋げる。</li> <li>提携校と体験学習等の交流事業を推進する。</li> </ul>

<p>⑤ 中高一貫体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浪商祭を中高合同で行う目的を確認、運営の見直しと点検が必要だったが不十分であった&lt;B&gt;</li> <li>・浪中生が高校でリーダー的な役割を担うためにも生徒会活動や委員会活動の協働的作業の構築を計画したが、内容が不十分であった。 &lt;B&gt;</li> <li>・中高一貫のキャリアマネジメントの構築を図るため行事などの点検や工夫を行った。 &lt;B&gt;</li> <li>・委員会活動の在り方について教員間の共通認識を図ることができなかつた&lt;D&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の目的を踏まえた企画、運営の見直しと点検を図る。中高の現状に即した機能的な運営体制の構築を目指す。</li> <li>・新コース再編を見据え、中高一貫のキャリアマネジメント教育の基盤を構築する。</li> <li>・中学生、高校生、教員とも委員会活動の在り方、役割分担、具体的な活動内容について共通理解を図り、組織的な運営体制を構築する。</li> </ul>
<p>⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性（コースごと）に合わせた工夫した指導が必要であった。 &lt;B&gt;</li> <li>・学校生活、人間関係等の不満の解消や風評（SNS書き込み）の誘発を防ぐために生徒の対応についての教員の意識改革を行った。 &lt;C&gt;</li> <li>・生徒会で生徒アンケートを実施し要望や意見をまとめ、学校と話し合いを重ねて、主体的に規範意識を高めていく取組みを行ってきたが学校休校を余儀なくされ中途半端に終わってしまった&lt;B&gt;</li> <li>・教員のスマホ、SNS使用に関するガイドラインの構築を図る（さくら連絡網に変更）。 &lt;A&gt;</li> <li>・生徒会活動への関心の高まりからか、立候補者も複数出て、立会い演説会も白熱した。さらに執行部の次年度への引き継ぎもスムーズに行えるようになった&lt;A&gt;</li> <li>・浪商祭を生徒主体の行事として意識させようとしたが不十分であった。&lt;B&gt;</li> <li>・委員会活動などを通して、学校での課題を自らで解決できるようにできなかった。&lt;D&gt;</li> <li>・校内駐輪場の整備とマナーアップや地域貢献などボランティア活動への積極的参加を促した。&lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性（コースごと）に合わせた指導体制を構築する。</li> <li>・学校生活、人間関係等の不満の解消や風評（SNS書き込み）の誘発を防ぐために生徒の対応についての教員の意識改革を図る。</li> <li>・生徒会で生徒アンケートを実施し要望や意見をまとめ、学校との話し合いを重ねて、主体的に規範意識を高めていく取組みを今後も継続する。</li> <li>・さくら連絡網、クラッシー、スタディーサプリ等を活用した生徒、保護者、教員への連絡ツールのガイドラインを整理する。</li> <li>・生徒会組織の再構築を図り、浪商祭を生徒主体の行事として取り組ませる。</li> <li>・委員会活動などを通して、学校での課題を自らで解決できるように働きかける。</li> <li>・運動クラブ員による毎朝の校内駐輪場整理、教員の自主的な清掃活動、あいさつ運動など校内美化やマナーアップに向けた協力の輪を更に広げる働きかけを行う。</li> </ul>
<p>⑦ 人権教育・安全教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係、スマホ、ネットに関して講習するなど意識向上の手立てを検討、実践した。 &lt;A&gt;</li> <li>・相談室を中心にピアサポートなどを通して総合的探究の時間に系統的に学ばせた&lt;A&gt;</li> <li>・修学旅行に絡めて沖縄、シンガポールの歴史を学び、グループ行動を通して友人関係を深め、コミュニケーション力を育む試みを行った。 &lt;B&gt;</li> <li>・人権をテーマに教員研修が行えた&lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も各分掌(生徒指導部、保健部、人権部、教育相談室)及び、各学年においても HR、総合的探究の時間を活用して、人間関係、スマホ、ネットを取巻く諸問題に関しては、年間計画を中心に指導を進めていく。また必要に応じて、タイムリーなアプローチも導入していく。</li> <li>・人権教育、安全教育に関する教員研修については今後も年間計画に基づき、実施する。</li> </ul>

※達成状況は次の5段階評価で示す

<S>よく達成できた <A>まあまあ達成できた <B>どちらとも言えない

<C> あまり達成できていない <D> まったく達成できていない

分析及び検討：2020（令和2年） ①1.10. ②3.16. ③9.4 ④10.22